



令和 6（2024）年度
事業報告書



「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

学校法人金井学園



I・法人の概要

1. 建学の精神	3
2. 学校法人の沿革	4
3. 設置する学校・学部・学科等	7
4. 学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況	9
5. 役員（理事・監事）の概要	10
6. 評議員の概要	11
7. 学校長	12
8. 教職員の概要	12
9. 組織図	13

II・事業の概要

1. 第4次中期計画	14
2. 福井工業大学	16
3. 福井工業大学附属福井高等学校・福井中学校	20
4. 福井県医療福祉専門学校・福井製菓専門学校	22
5. 法人本部	24
6. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況	26
7. 施設等の状況	27

III・財務の概要

1. 決算の概要	
1-1. 資金収支計算書	28
1-2. 事業活動収支計算書	29
1-3. 貸借対照表	30
2. 主な財務比率比較	
2-1. 主な財務比率比較	31
3. その他	
3-1. 有価証券の状況	32
3-2. 借入金の状況	32
3-3. 学校債の状況	32
3-4. 寄付金の状況	33
3-5. 補助金の状況	33
3-6. 収益事業の状況	34
3-7. 関連事業者との取引の状況	34
4. 来年度以降の展望	34



1. 建学の精神

金井 学園
建学の精神

悠久なる日本民族の歴史と伝統とに
根ざした愛国心を^{つちか}培い、節義を重んずる
人格の育成、科学技術の^{けんさん}研鑽に努め、
以て人類社会の福祉に貢献する。



2. 法人の沿革 (令和6年5月1日現在)

昭和 25 年 4 月	福井市豊島上町 93 番地に中学校卒業を入学資格とする（2 年制）と専科（夜間 1 年制）を有する北陸電気専門学校を創設
27 年 4 月	本校を 3 年制とし、高校教科書による単位修得に改める
27 年 11 月	生徒数の増加及び実験室等の整備のため福井市明里町 29 番地に移転
33 年 4 月	建設科を増科
34 年 2 月	学校法人金井学園創立認可
34 年 4 月	福井実業高等学校として発足 学校教育法に規定する工業課程の高等学校として電気科・建設科を置く
34 年 11 月	福井市東明里町 20 番地に校舎新築移転
35 年 4 月	福井実業高等学校に生活科学科(女子)増科
36 年 4 月	福井実業高等学校に電気通信科増科
36 年 11 月	福井実業高等学校同科廃止
37 年 4 月	福井実業高等学校に電子科・機械科増科
37 年 12 月	福井短期大学設置認可
38 年 4 月	福井短期大学(電気科)開学
39 年 4 月	福井短期大学に機械・家政科増科 教職課程設置
40 年 2 月	福井工業大学設置認可
40 年 4 月	福井工業大学(電気工学科・機械工学科)開学
40 年 4 月	福井短期大学家政科を独立して、福井女子短期大学と改称
40 年 4 月	福井実業高等学校の生活学科を普通科(女子)と改称
40 年 10 月	福井実業高等学校を福井高等学校と改称
41 年 4 月	福井工業大学に建設工学科増科 教職課程設置
41 年 4 月	福井女子短期大学家政科を家政・食物栄養に専攻分離
41 年 4 月	福井高等学校に普通科(男子)増科
42 年 4 月	福井高等学校にデザイン科を増科 電子科を電気科に統合 建築科と改称し、建築・土木の 2 コースとする
43 年 4 月	福井高等学校に衛生看護科増科
44 年 4 月	福井高等学校に自動車整備科増科 電気科にテレビコース開設
45 年 4 月	福井女子短期大学の家政専攻を家政経済専攻と改称
47 年 4 月	福井高等学校に航空機整備科を増科
48 年 4 月	福井工業大学に応用物理学科増科
52 年 8 月	福井女子短期大学廃止
53 年 2 月	福井高等学校を福井工業大学附属福井高等学校と改称



54 年 4 月	福井工業大学応用物理学科の改称を環境安全工学科に変更
55 年 4 月	フクイモダンデザイン専修学校設置
58 年 4 月	福井工業大学機械工学科を機械工学専攻・電子工学専攻に専攻分離
60 年 4 月	福井工業大学に大学院（工学研究科）設置
61 年 4 月	福井工業大工学部期間を付した定員増(平成 11 年迄)
62 年 4 月	福井工業大学に経営工学科設置
63 年 4 月	福井工業大学附属福井高等学校に商業情報科設置
平成 元年 4 月	福井工業大学附属福井中学校設置
元年 4 月	別科（工学専修科）に土木工学専攻・化学計測専攻・経営情報学専攻を開設
元年 4 月	福井工業大学工学研究科博士課程開設
4 年 4 月	福井産業デザイン専修学校の高等課程を廃止し、商経専門課程を設置
7 年 12 月	福井工業大学に編入学制実施
10 年 4 月	福井工業大学附属福井高等学校に衛生看護専攻科を設置
13 年 4 月	福井工業大学に宇宙通信工学科設置
14 年 4 月	福井工業大学電気工学科を電気電子工学科に名称変更
15 年 4 月	福井産業デザイン専修学校を廃止
15 年 7 月	収益事業の認可
16 年 4 月	福井工業大学経営工学科を経営情報工学科へ名称変更
16 年 4 月	福井工業大学附属福井高等学校に工業科、情報科を設置
17 年 4 月	福井工業大学に原子力技術応用工学科を設置
21 年 4 月	福井工業大学にデザイン学科を設置
22 年 4 月	福井工業大学附属福井高等学校に特別進学科・進学科を設置
23 年 4 月	福井工業大学に産業ビジネス学科を設置
24 年 4 月	福井工業大学建築生活環境学科を設置
27 年 4 月	福井工業大学にスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科を設置
27 年 4 月	福井工業大学に環境情報学部環境・食品科学科、同経営情報学科、及び同デザイン学科を設置
27 年 4 月	福井工業大学工学部電気電子情報工学科を電気電子工学科へ、また同建築生活環境学科を建築土木工学科へ名称変更
30 年 4 月	収益事業（若狭町みさき漁村体験施設の指定管理者としての請負業）の認可
令和 2 年 4 月	福井工業大学環境情報学部環境・食品科学科を環境食品応用化学科へ名称変更
3 年 4 月	学校法人新和学園（福井県医福祉専門学校、福井製菓専門学校、福井公務員専門学校）と法人合併



4 年 4 月	福井県医療福祉専門学校に文化教養専門課程日本語学科を設置
4 年 4 月	福井公務員専門学校を廃校
5 年 4 月	福井工業大学学部学科再編(4 学部 8 学科)
5 年 4 月	福井工業大学に経営情報学部経営情報学科設置
5 年 4 月	福井工業大学環境情報学部を環境学部へ名称変更
5 年 4 月	福井工業大学工学部電気電子工学科を電気電子情報工学科へ名称変更
5 年 4 月	福井工業大学環境情報学部経営情報学科学生募集停止



3. 設置する学校・学部・学科等 (令和6年5月1日現在)



福井工業大学

Fukui University of Technology

- 工学部
 - ・電気電子情報工学科 ・機械工学科
 - ・建築土木工学科 ・原子力技術応用工学科
- 環境学部
 - ・環境食品応用化学科 ・デザイン学科
- 経営情報学部
 - ・経営情報学科
- スポーツ健康科学部
 - ・スポーツ健康科学科
- 大学院
 - ・応用理工学専攻（博士前期）
 - ・社会システム学専攻（博士前期）
 - ・応用理工学専攻（博士後期）
 - ・社会システム学専攻（博士後期）



福井キャンパス



あわらキャンパス



福井工業大学附属 福井高等学校

Fukui Senior High School

- 特別進学科
- 進学科
- 衛生看護科
- 衛生看護専攻科



福井工業大学附属 福井中学校

Fukui Junior High School





福井県医療福祉専門学校

Fukui Medical Welfare College

- こども・介護学科
- 医療事務学科
- 日本語学科



福井製菓専門学校

Fukui Confectionery College

- 製菓衛生師科





4. 学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況

4-1. 福井工業大学・大学院（令和6年5月1日現在）

（単位：人）

学部	学科	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
工学部	機械工学科	70	45	266	
	電気電子情報工学科	80	75	304	
	原子力技術応用工学科	20	10	73	
	建築土木工学科	70	76	307	
	計	240	206	950	
環境学部	デザイン学科	50	47	187	
	環境食品応用化学科	30	16	93	
	経営情報学科	-	-	207	
	計	80	63	487	
経営情報学部	経営情報学科	100	111	211	
	計	100	111	211	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	80	87	312	
	計	80	87	312	
	合計	500	467	1,960	
工学研究科(博士課程前期)	応用理工学専攻	17	11	28	
	社会システム学専攻	8	6	8	
	計	25	17	36	
工学研究科(博士課程後期)	応用理工学専攻	4	0	1	
	社会システム学専攻	2	2	13	
	計	6	2	14	
	合計	31	19	50	

4-2. 福井工業大学附属福井高等学校・衛生看護専攻科（令和6年5月1日現在）

課程	学科	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
全日制課程	特別進学科	130	145	381	
	進学科	350	353	1,009	
	衛生看護科	40	28	104	
	合計	520	526	1,494	
	衛生看護専攻科	40	33	60	
	合計	40	33	60	

4-3. 福井工業大学附属福井中学校（令和6年5月1日現在）

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
全日制課程	80	67	203	
合計	80	67	203	

4-4. 福井県医療福祉専門学校（令和6年5月1日現在）

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
社会福祉専門課程	100	29	59	
商業実務専門課程	40	13	13	
文化教養専門課程	40	39	48	
合計	180	81	120	

4-5. 福井製菓専門学校（令和6年5月1日現在）

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
衛生専門課程	20	12	21	
合計	20	12	21	

4-6. 学生・生徒総計（令和6年5月1日現在）

	入学定員数	入学者数	現員数
学生・生徒総数	1,371	1,205	3,908



5. 役員(理事・監事)の概要 (令和7年3月31日現在)

定員数 理事 10 名 監事 2 名

役職名	氏名	現職	常勤 非常勤	選任条項	摘要
理事	金井 兼	理事長	常	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成4年12月理事就任 平成4年12月理事長就任
理事	松浦 悦郎	常務理事	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	平成25年4月理事就任 平成27年4月常務理事就任
理事	掛下 知行	福井工業大学 学長	常	寄附行為第十二条 第一項第一号	平成30年4月理事就任 平成30年4月学長就任
理事	佐々木 栄秀	附属福井高等学校・中学校 校長	常	寄附行為第十二条 第一項第一号	平成31年4月理事就任 令和2年4月附属高校校長・ 附属中学校校長就任
理事	池田 岳史	福井工業大学 副学長	常	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成29年4月副学長就任 平成31年4月理事就任
理事	黒川 二二夫	黒川建築設計室代表	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	令和4年1月理事就任
理事	井上 毅	弁護士	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成25年7月理事就任
理事	渡辺 雅之	税理士	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	令和2年4月理事就任
理事	道内 由佳里	常務理事・ 法人本部秘書室長	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	平成28年4月理事就任 平成28年4月秘書室長就任 令和6年4月常務理事就任
理事	藤井 貴広	附属福井高等学校 教頭	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	平成31年4月附属高校教頭就任 令和2年4月理事就任
監事	吉田 五衛	無職	非	寄附行為第十三条	令和2年4月監事就任
監事	野村 孟弘	公認会計士	非	寄附行為第十三条	令和2年4月監事就任



6. 評議員の概要 (令和7年3月31日現在)

定員数 21名

役職名	氏名	現職	選任条項	上段:就任年月日 下段:重任年月日
評議員(学内)	金井 兼	理事長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成2年7月2日 令和4年8月8日
評議員(学内)	松浦 悦郎	常務理事	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成2年7月2日 令和4年8月8日
評議員(学内)	掛下 知行	福井工業大学 学長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成30年4月1日 令和4年4月1日
評議員(学内)	佐々木 栄秀	附属福井高等学校・ 福井中学校校長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成31年4月1日 令和4年4月1日
評議員(学内)	池田 岳史	福井工業大学 副学長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成31年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学外)	黒川 二二夫	黒川建築設計室代表	寄附行為第二十条 第一項第一号	令和4年1月24日 令和4年8月8日
評議員(学外)	井上 毅	弁護士	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成25年7月2日 令和4年8月8日
評議員(学外)	渡辺 雅之	税理士	寄附行為第二十条 第一項第一号	令和2年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学内)	道内 由佳里	常務理事・ 法人本部秘書室長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成28年4月5日 令和4年8月8日
評議員(学内)	藤井 貴広	附属福井高等学校 教頭	寄附行為第二十条 第一項第二号	令和2年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学内)	中舎 喜博	福井工業大学事務局 局長	寄附行為第二十条 第一項第二号	令和5年7月19日
評議員(学内)	山田 典孝	福井工業大学事務局次長・ 学務課長	寄附行為第二十条 第一項第二号	令和4年8月8日
評議員(学内)	宮本 由佳子	法人本部総務部長・ 管財課長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成30年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学内)	吉村 喜信	福井工業大学非常勤講師	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成13年11月26日 令和4年8月8日
評議員(学外)	山田 健治	社会福祉法人 やしろ中央会 理事長	寄附行為第二十条 第一項第三号	昭和49年4月23日 令和4年8月8日
評議員(学内)	金井 兼信	法人本部経営企画部長	寄附行為第二十条 第一項第三号	令和4年8月8日
評議員(学外)	木村 洋子	社会福祉法人 坂井福祉会 理事長	寄附行為第二十条 第一項第四号	令和4年8月8日
評議員(学外)	渡邊 忠造	税理士	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成20年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学外)	坪川 哲也	株式会社大和印刷所 代表取締役社長	寄附行為第二十条 第一項第四号	令和4年8月8日
評議員(学外)	杉山 聡理	藤島幼稚園園長	寄附行為第二十条 第一項第四号	令和5年7月19日
評議員(学外)	高橋 正恭	(株)C&B 代表取締役	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成27年4月1日 令和4年8月8日



7. 学校長 (令和7年3月現在)

学校名	役職名	氏名
福井工業大学	学長	掛下 知行
福井工業大学附属福井高等学校	校長	佐々木 栄秀
福井工業大学附属福井中学校		
福井県医療福祉専門学校	校長	栗原 美幸
福井製菓専門学校		

8. 教職員の概要 (令和6年5月1日現在)

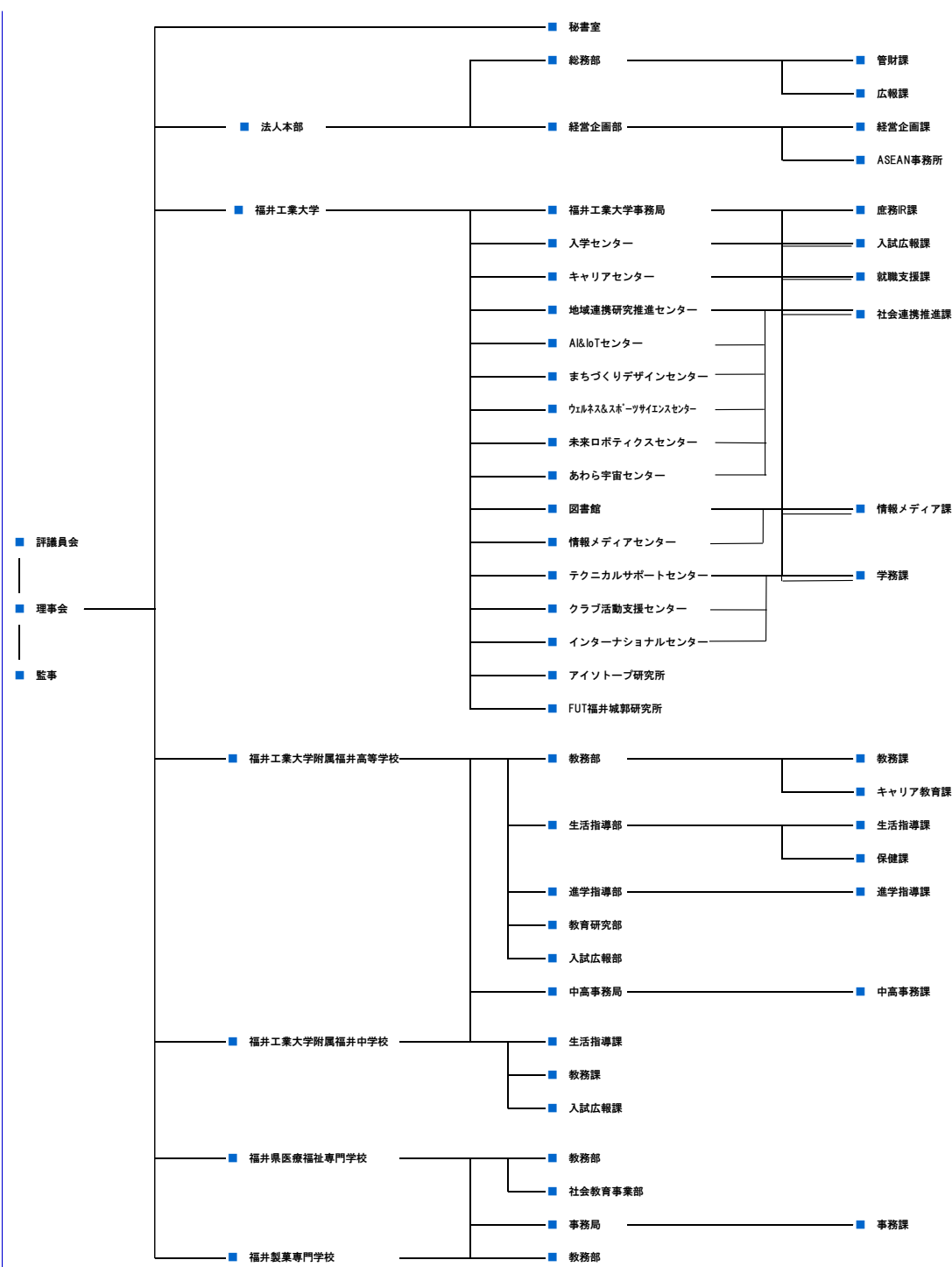
	(単位：人)			
	教員		職員	
	本務	兼務	本務	兼務
法人本部			4	8
福井工業大学	99	69	71	7
福井工業大学附属福井高等学校	74	117	23	6
福井工業大学附属福井中学校	19	14	5	0
福井県医療福祉専門学校	15	51	5	1
福井製菓学校	4	16	0	1
合計	211	267	108	23

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。





9. 組織図 (令和7年3月31日現在)





1. 第4次中期計画

第4次中期計画（2024年度～2028年度）

「つながる力で人を育てる」を中期ビジョンとして掲げ実行します。

なお、第4次中期計画は「つながり」を強化するためにも、【戦略分野】を全部門共通としました。戦略分野、各学校の行動目標は、次のとおりです。

中期ビジョン・戦略分野

「つながる力で人を育てる」

基本理念「すべてを学生・生徒のために」に基づき、
つながることで組織の総合力を発揮して人を育てます。

つながることで相乗効果を発揮する

連携活動の強化

教育・研究で深い学びにつなげる

教育力・研究力の向上

未来につながる環境を創る

環境・体制の創出

オンライン
金井学園の魅力を社会につなげる

ブランドの確立

行動目標

戦略分野	行動目標			
	大学	中高	専門学校	本部
連携活動の強化	1. 中高大専連携の強化(学園内連携の強化) 2. 地域との連携強化 3. 海外との連携強化 4. 同窓会との連携	1. 金井学園内連携の強化 2. 地域社会連携活動の強化 3. 海外との連携強化 4. 同窓会組織との連携強化	1. 中高大専門連携の強化 2. 地域との連携強化 3. 海外との連携強化 4. 同窓会との連携強化	1. 学園内連携の強化 2. 海外との連携強化
教育力・研究力の向上	1. 教育の質の向上 2. 学部生、院生の研究力向上 3. 宇宙研究の推進 4. センター研究の推進 5. 教員の研究力の向上	1. 教育基盤構築による教育の質の向上	1. 教育内容・方法の充実 2. 教職員育成	1. 教育に注力するための業務効率化 2. 教育力向上を目的とした予算・資産の最適化 3. 質の高い教育のための教職員の資質向上
環境・体制の創出	1. 教育環境の整備 2. 研究環境の整備 3. キャリア支援の充実 4. 多様な学生の活動支援・活動環境の整備 5. 大学組織のダイバーシティの推進	1. 共育環境の整備 2. ワークライフバランスの実現	1. 教育設備の充実 2. 学生サポート体制の構築	1. 教育力・研究力を高める環境の整備 2. 危機管理体制の強化
ブランドの確立	1. 国内外への広報 2. 高校への広報	1. 入試広報の強化	1. 広報活動の強化 2. 学生募集の強化	1. 学園広報の充実



“つながる”取り組み ～学内連携の強化～

1. 中期ビジョン「つながる力で人を育てる」をテーマとしたSDの実施

第4次中期計画の初年度として、学園内での「つながる力」の重要性を理解することを目的とした研修を実施しました。吉本興業所属タレント八木真澄氏を講師にお招きし、「人とつながるコミュニケーション術」と題して研修を行いました。参加者からは「他者との関わり方やコツなどリアリティのある事例を通して学ぶことができた」「自分を取り巻く人間関係を客観視し、仕事がどれだけ自分に影響しているかを認識できた」といった意見が寄せられました。



2. 大学の学びを中学生へ

福井中学校における探求学習において、大学での学びの面白さを伝えるため、中学2年生向けに模擬授業体験を実施しました。中学生はこの探求学習を通じて自分の関心分野を認識することができ、今後の大学進学や学ぶことに対するモチベーション向上に繋がりました。



福井高校生は、福井工業大学あわらキャンパス宇宙センターを訪問し、最先端の宇宙研究に触れる貴重な体験をしました。情報技術と宇宙開発のつながりを実感しながら、大学での学びを身近に感じる一日となり学びのモチベーションにつながる有意義な見学となりました。



3. 学園内共同事業の展開

福井製菓専門学校の学生が作った菓子を福井工業大学の大学祭、福井高校の学校祭、キャンパスコンビニ内でも販売を開始しました。こうした活動により、今まで以上に多くの方に福井製菓専門学校の菓子を届けることができ、お互いの学校の魅力を知るきっかけとなる良い機会となりました。





2. 福井工業大学

地域との連携強化

1. 地域課題解決型 PBL の推進

本学では、課題解決型学習 (PBL : Project Based Learning) を推進し、「FUT 実践学演習」や「地域活性演習」の授業において、専門分野にちなんだ課題、地域や企業の抱える問題など様々な課題の解決に取り組んでいます。専門家や地域住民の支援を受けて進められる課題解決型学習を通じて、学生の主体性や情報利活用の能力を育み、持続可能な社会づくりや地方創生の担い手を輩出することに努めています。その中でも特に力を入れているテーマは地域と関わりのあるテーマで、全教員 99 人中 35 人が地域に関わるテーマで実施しました。

今後も学生の主体的な学びを広げていくため、PBL 活動を推進していきます。

2. 県内企業・自治体からの外部資金（技術指導・受託・共同研究件数）

新規の県内企業・自治体からの外部資金（受託・共同研究件数）は、共同研究 6 件、受託研究 8 件でした。

共同研究件数の内訳は、県内大学が 1 件、県内企業が 5 件、受託研究件数の内訳は、県内自治体・商工会議所が 3 件、県内大学が 1 件、県内企業が 4 件でした。

県内からの外部資金研究受入資金としては、共同研究が 2,593,250 円、受託研究が 4,018,939 円でした。

海外との連携強化

1. 海外連携協定校と積極的な交流を実施

令和 6 年 7 月に明知大学（大韓民国）、令

和 6 年 8 月にラジャマンガラ工科大学ラチャパット校（タイ王国）とキングモンクット工科大学ラッカバン校（タイ王国）に本学の教職員が訪問し、今後の交流について協議を行いました。

また、令和 7 年 2 月に本学の学生 12 名、教員 2 名が明知大学の文化交流プログラムに参加しました。韓国語レッスンははじめ、韓国食文化、景福宮で韓服体験など様々な韓国文化に触れられるとともに、学生は明知大学の学生とも交流を深め、充実したプログラムを経験することができました。



（明知大学での文化交流プログラム）

同窓会との連携強化

1. ホームカミングデーを開催

令和 6 年 11 月にあわらキャンパスにて、ホームカミングデーを開催しました。今回は「あわら宇宙フェス」と同時開催とし、26 名の同窓生やそのご家族にご参加いただきました。講演会や体験イベントなど、親子で楽しめるイベントとなり、パラボラアンテナやあわらキャンパスの施設など、母校の今を知っていただく機会となりました。

教育の質の向上

1. 生成 AI を活用した勉強会の開催

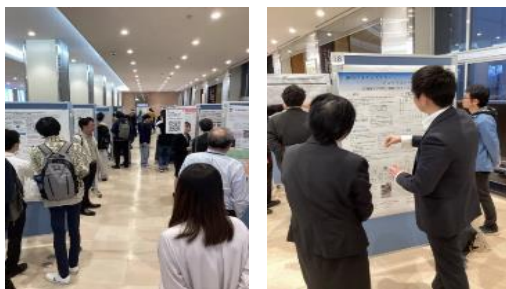


FD・SD推進委員会主催の研修会を全5回実施し、令和6年度は特に生成AIを活用した授業や注意すべき点など、教育支援を中心に実施しました。授業運営での活用方法や学生の生成AIを利用したレポート、テストの解答など、昨今問題になっている点をわかりやすく丁寧に実施し、教員へのアドバイスも含めて実施しました。

学部生、院生の研究力向上

1. 大学院生の研究活動の活性化を推進

大学院生の研究活動を学内外に知ってもらい、研究活動を活性化させることを目的として、本学に在学している大学院生の研究成果発表ポスターセッションを開催しています。令和6年度は11月に大学2号館1階学生ロビーにて開催されました。令和6年度は博士前期・後期課程の在籍数36名に対し、29名の大学院生の参加（80.6%）があり、1分間のショートプレゼンのあと、個別に教職員や学生と質疑応答をしました。学部生の参加もあり、大盛況のうちに終了しました。



（研究成果発表ポスターセッション）

宇宙研究の推進

1. 令和6年度 宇宙戦略基金事業に新規採択

令和6年度宇宙戦略基金事業（委託元：JAXA）に本学の提案課題「福井工業大学

13.5m地上局を利用した月-地球間通信システム設計の提案」が新規採択されました。

事業では、FUT13.5mをベースとして新しい技術を取り入れ、より高性能な地上局を実現するため、下記の技術の検討を行い将来あるべき月-地球通信システムの地上局の基本設計およびそのための地上局ネットワークの案を検討しています。

- 1) 地上局への要求や海外のネットワークの調査と地上局の目指すべき性能の設定
- 2) 小型アンテナの送受信性能の改善
- 3) ソフトウェア無線技術を利用したベースバンド装置の開発
- 4) 軌道データ取得のための地上局時計および局位置の高精度化
- 5) 将来の地上局ネットワーク運用システムの開発計画の策定
- 6) 将来月ミッションのための地上局およびそのネットワークの基本設計の提案

センター研究の推進

1. AI&IoTセンターの活動推進

AI&IoTセンターではシンポジウム等を計3回開催しました。令和6年6月に開催した、「生成AIテクノロジーイベント」では、ハンズオンを通じた学びの機会を提供しました。

2. まちづくりデザインセンターの活動推進

センター主催のセミナー・シンポジウムを2回開催し、脱炭素セミナーにはオンライン参加も含めて125名、シンポジウムには70名の方にご参加いただきました。



3. ウェルネス&スポーツサイエンスセンターの活動推進

令和7年3月に、第3回福井ウェルネス&スポーツサイエンス研究会を開催しました。ミズノテクニクス株式会社、福井ブルーウィンズの方々を講師としてお招きし、学内外から様々な方にご参加いただきました。

4. 未来ロボティクスセンターの活動推進

令和6年10月に「北陸技術交流テクノフェア2024」が開催され、「全電動式草刈ロボットの研究開発」をテーマに出展しました。

5. あわら宇宙センターの活動推進

当センターは令和6年7月に設立されました。高校生向けにアンテナの操作や、受信データの画像処理などを行う見学体験会を2回開催しました。

6. 城郭研究所の活動推進

FUT 公開講座「福井城址口のまちづくり」「お侍さんも引っ越していたの？」の2回を開催し、福井城址口と呼ばれる所以や、当時のお侍の生活などについて紹介しました。

7. アイソトープ研究所の活動推進

安全教育を令和6年4月20日に実施し、特別講演として、福井県庁原子力安全対策課参事山本晃弘様にご講演をいただきました。

教員の研究力の向上

1. 科学研究費助成事業の研究課題について

令和6年度科学研究費助成事業の研究課題件数は以下の通りでした。

令和6年度 科学研究費助成事業				
	件数	直接経費	間接経費	合計額
継続課題(代表分)	17	8,600,000	2,580,000	11,180,000
新規課題(代表分)	6	12,700,000	3,810,000	16,510,000
他機関代表分担分	11	3,275,000	982,500	4,257,500
合計	34	24,575,000	7,372,500	31,947,500

(令和6年度科研費件数一覧)

教育環境の整備

1. 教育・研究環境のICT化推進

本部・大学・高校・中学・専門学校で協調して効率的なICT環境を検討するために、「金井学園ICT有効活用プロジェクト」を立ち上げました。学内システムのクラウド化、情報環境の共有化、LAN環境の統合化について、プロジェクト内で検討を進めています。

また、ICT環境の検討にあたり、本学の情報セキュリティリスクを把握するため、第三者によるセキュリティ診断を実施したところ、スコアは94と教育機関の中では平均より高いセキュリティレベルが維持されていることが確認できました。

キャリア支援の充実

1. 多様化する就職活動に対応するため企業・産業界との情報交換の強化

採用側の動向に注力し、企業との情報交換会等に積極的に参加し、本学学生への求人確保に努めました。またキャリアセンター職員のほか、各学科の就職担当教員も、年間を通じて企業との個別面談対応を実施し、卒業生の状況や企業側の採用に関する情報収集を行いました。更に、本学卒業生の卒業後6ヵ月以内と3年以内の離職率を集計・検証を行いました。

■情報交換会参加数 計23回 20～80社/回



■来学企業面談数 830 社

■企業への本学卒業生に関するアンケート調査

多様な学生の活動支援・活動環境の整備

1. 学生プロジェクト

本学では、学生のものづくりの自由な発想を後押しするため、SSL (Student Space Laboratory) を設置しており、学生主体のプロジェクト活動を行っています。令和 6 年度は公認プロジェクトとして「Ene-1 GP 電気自動車プロジェクト」「FUT 学生フォーミュラプロジェクト」、簡易プロジェクトとして「模型ファクトリープロジェクト」「FUT ロボットファクトリープロジェクト」が活動しました。

特に FUT 学生フォーミュラプロジェクトでは新たな車体を製作して大会に臨み、動的審査を通過することはできなかったものの、大きな経験を積むことができました。また、令和 6 年度には新たに簡易申請プロジェクト「FUT ロボットファクトリープロジェクト」がスタートし、令和 7 年度に本学で開催される工大サミットで活動できるよう準備を進めています。今後も学生の活動支援を進め、プロジェクト活性化につなげていきます。



(左：FUT 学生フォーミュラプロジェクト)

(右：Ene-1 GP 電気自動車プロジェクト)

大学組織のダイバーシティの推進

1. ダイバーシティ推進に向けた意識の醸成

令和 7 年 3 月、大学教職員を対象に、「ダイバーシティ推進にむけた教職員研修会」を実施し 46 名の教職員が参加しました。

講演会では、「武庫川女子大学におけるダイバーシティ推進の取り組み」と題して、武庫川女子大学における挑戦的次世代女性リーダー育成プログラムや令和 6 年度に実施したセミナーについて説明していただきました。また、本学の入試広報課より「女子学生獲得に向けた取り組み」について報告しました。



(教職員研修の様子)

ブランドの確立

1. 高校内ガイダンスへの高い出席率の維持

出願実績や接触履歴などのデータを分析し、募集重点エリアや実施内容を考慮に入れながら、戦略的に高校内ガイダンスに出席しました。

主に低学年を対象とした職業別・分野別ガイダンスには教員が対応し、大学概要や入試説明、入試対策講座などの内容には職員が対応するなど、実施内容に応じて教職員が連携して対応しました。こうした取り組みにより、参加を検討したガイダンスへの出席率は 95%となりました。また、ガイダンスにて接触した高校生に対しては、DM 等を活用してオープンキャンパス等の情報提供を行いました。



3. 福井工業大学附属福井高等学校・福井中学校

1. 吉本興業と連携した教育活動（連携活動の強化）

吉本興業（株）様と連携し、令和6年度の学校祭では、吉本新喜劇の舞台をつくり上げました。本番までに舞台演出や音響、美術、舞台演技等の練習や準備を重ね、舞台裏での仕事と舞台上での演技を行い、舞台製作の一連の流れについて学びました。他の生徒は完成度の高い吉本新喜劇を観劇し、他では経験できない学校祭となりました。また、「お笑い芸人によるプレゼンテーション講座」や「くだらないものづくり」など、吉本芸人との企画も行いました。



2. 姉妹校と連携した国際交流（連携活動の強化）

本校の姉妹校である、タイのプラサミット高校やブルークパンヤ高校と、スポーツや看護学をテーマに交流を行い、またモンゴルの新日馬富士学園とも文化交流を行いました。

活動は、大学や専門学校のカも借りて、高いレベルで深い内容の交流をすることができました。スポーツの交流では、ゴルフやサッカー、柔道などの



練習を共に行い、それぞれの強みを活かしたプレーを通して国際交流を深めながら、楽しい時間を過ごしました。全体の活動を通して、相互に刺激し合い、グローバル意識を醸成することができました。

3. 地域社会との交流（連携活動の強化）

令和7年3月3日、本校生徒が社中央第一・第二こども園で、園児と折り紙やスライム作りをし、日本の伝統文化を学びながら楽しい交流を行いました。福井県立福井特別支援学校では生徒会役員が特別支援学校の生徒と紙コップでひな人形を作り、特別支援学校の先生からは、「生徒がすごく喜んでいて、普段笑わない生徒が笑っていて驚いた。」などの意見をいただきました。金井学園と福井県立特別支援学校の連携協定の締結に伴い、今後も生徒の学びや課外活動等での交流を通して多角的な学びが展開できるよう努めて参ります。



また、令和7年4月2日、本校生徒14名が石川県輪島市の諸岡公民館で150人分の炊き出しを行うボランティア活動に参加しました。この活動をきっかけに、生徒や保護者の参加意識が高まり、その後の外部でのボランティア活動へ参加する生徒が増えました。





4. デュアル・ディプロマ・プログラム修了者の輩出（教育力・研究力の向上）

県内で唯一実施している、日本とアメリカの高校卒業資格を同時に取得するデュアル・ディプロマ・プログラム（以下 DDP）において、令和 6 年度に修了者を輩出しました。これにより、アメリカの大学への進学がしやすくなり、進学先の幅が大きく広がります。グローバル教育に強い福井中高となるために、令和 7 年度も新規の募集をかけた新たな修了者の輩出を目指します。



（修了式の様子）

5. 国公立大学合格者数増加に向けた取り組み（教育力・研究力の向上）

国公立大学の学校推薦型選抜・総合型選抜に向けて、各受験生に高 3 担任及び進学指導部教員の担当者を 1 名割り当て、志望理由書の添削や面接・小論文の指導を行いました。特に面接は担当者だけでなく、他の教員とも練習をすることで、生徒の面接スキルを高めることができました。また、共通テスト後には、一般選抜合格に向けて学力向上を目的に、大学の難易度ごとに特別講座を実施しました。令和 7 年度入試では大阪大学に 2 名、北海道大学に 3 名、さらに医学部医学科に 1 名を始めとする多くの国公立大学の合格者を出すことができました。

国立大学				公立大学	
大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
大阪	2	信州	1	公立小松	1
北海道	3	愛知教育	1	福井県立	10
福井（医学科）	1	名古屋工業	1	長野	1
筑波	1	滋賀	1	長野県立	1
千葉	1	京都教育	1	愛知県立	1
東京外国語	1	大阪教育	1	神戸市立外国語	1
東京海洋大	1	愛媛	1	福知山公立	1
金沢	4	山口	1	周南公立	1
福井	20	九州工業	1	名桜	1

6. 高校 1 号館の内装工事を実施（環境体制の創出）

老朽化し、塗装が剥がれていた高校 1 号館の校舎の塗装を新装しました。これにより校舎内が明るく清潔感のある校舎に生まれ変わりました。



（高校 1 号館 教室前廊下）

7. 魅力的な学校の広報力の強化（ブランドの確立）

令和 6 年度より、本校のパンフレットをデジタル化したり、学校行事や普段の学校生活の様子を積極的に Instagram に配信したりと、広報の強化を図りました。特に、Instagram を活用した学力向上対策では、生徒会を中心に出題を行い、受験生だけでなく、在校生にとっても有意義なものになりました。また、令和 6 年度の様々な教育活動が評価され、高校では令和 7 年度入試において、入学定員を超過することができました。



4. 福井県医療福祉専門学校・福井製菓専門学校

1. 主体的な学びで学力向上

両校では、様々な背景や特性を持った学生と共に学ぶ中で多様な価値観を受け入れ多角的に物事が見られる人材を育成できるよう努めました。

(1) 外部試験の積極的な活用

介護福祉士コースでは、年2回の国家試験対策模試を実施しました。留学生では日本語能力と介護福祉士国家試験や模擬試験の結果には相関関係が見られたため、日本語能力向上が国家試験合格者数増に直結すると考え、介護福祉士コース2年生の日本語能力試験(JLPTN)受験料1回分を無償化と、対策授業を実施しました。このほか、日本語学科教員と連携しカリキュラムを構成することで、語学と介護分野を結びつけた指導も実施することができました。

(2) 特別講師を招いたコンクール対策講座の開講・強化チームの活動

福井製菓専門学校では、コンクール入賞に向け、マジパンやバタークリーム授業の講師としてコンクールで多数受賞歴を持つ先生にお越しいただき、コンクールでの重要ポイントの指導を受けました。また週に1回強化チームによる活動を行い、コンクール入賞を目指した活動を実施したこととで、県内大会では金・銀・銅の全ての賞を本校学生が受賞することができました。さらに10月に開催されたジャパンケーキショー東京にはマジパン部門へ4作品、バタークリーム部門へ3作品を出品することができました。

2. 海外で活躍できる人材を育成するための専門学校独自の取り組みを実施

(1) 海外から来校した学生の受け入れ

専門学校両校では令和6年度、金井学園や福井高校との海外協定・姉妹校と短期プログラムを実施しました。9月はタイ・シーナカリンウィロート大学プラサーンミット高校の学生が来校し、福井県医療福祉専門学校では「車椅子体験」を、福井製菓専門学校では製菓実習授業の見学を行っています。また、1月にはモンゴル・日馬富士学園の学生に対し福井県医療福祉専門学校では「日本文化体験」を、福井製菓専門学校では「マジパン体験」を行いました。



(2) 海外大学との連携協定締結に向けて

令和6年9月に日本語学科の教員と事務職員がタイへ現地訪問し、ラジャマンガラ工科大学ラタナコシーン校と連携した際の今後の活動について話し合いを行いました。また令和7年1月には栗原校長がタイへ訪問し、セックサン助教授と連携協定締結に向けた協議を行い、その結果、令和7年8月の連携協定締結を目標に協議を続けていくことになりました。専門学校として初めての海外教育機関との協定締結を実現するために今後も話を進めていく予定です。



3. 両専門学校の教育の質の向上を目指し、教職員研修を3回実施

学校全体の教育の質の向上のため、両校の教員同士が授業での指導や学生対応のノウハウを共有する3回の教育実践研究会を実施しました。実施の背景として、様々な特性を持った学生の増加に伴い、教職員個人では対応に迷いや困難が生じていたことなどがあり、指導方法などの工夫点を共有する必要性を感じていたことがあります。それぞれの研究会は、第1回目は学生対応に関する意見交換会、第2回はメンタルヘルスの研修会(テーマ:様々な特性を持った学生への対応)、第3回は教育方法・学生対応のノウハウのシェアを目的に「学生対応について」「協働型リサーチについて」をテーマとした教員による発表が行われました。



4. 地域での存在感を高める活動を促進

令和6年度、両校は地域の中での役割を見直すことで専門学校の活動が地域の一助となり地域の発展を促進する存在となるための活動を推進してきました。

(1) 専門学校独自の公開講座を開講

専門学校では初の取り組みとして独自の公開講座を開講しました。(全5回)
講座内容は「介護・福祉のおしごとを体験しよう」「クッキー缶を作ろう」など各校の得

意分野を活かした内容となっており、「介護」、「保育」、「製菓」を主題として地域の方に身近に感じていただくことができました。公開講座を通して普段は学校との関わりの少ない方たちと交流が生まれ地域に根差した専門学校への第一歩目となりました。



(2) 地域イベントを通じた貢献

令和6年度は子ども介護学科1年生、日本学科の学生合計67名が福井フェニックス祭りでよさこいを披露、医療事務学科学生はイベントスタッフとして参加しました。学科、国籍を超えた全員でのよさこい演舞は、専門学校のアピールとなりました。その他こども・介護学科では全国障害者スポーツ大会でのスタッフボランティアとして1年生23名が参加し水泳競技の運営補助、受付招集補助などを通して障がい者の方と直接交流し学校での学びを実践する機会となりました。また福井製菓専門学校では福井コーヒーフェスティバルへ初の出店を果たし、アイシングクッキー体験のワークショップを実施しイベントの一角を盛り上げることが出来ました。





5. 法人本部

1. 吉本興業株式会社との包括連携協定に基づいた各学校の魅力発信

BS よしもとで「ロングコートダディのつるつるいっぱい学園」を月 1 回放送、YouTube 企画で「GAG 福井、福井に行く。」を 17 回放送、令和 6 年 9 月 5 日に中高祭で吉本新喜劇を開催しました。



2. Google カレンダー活用によるスケジュール管理の合理化

月間行事予定の管理を見直し、Google カレンダーを活用した管理を導入しました。その結果、円滑に情報共有が行えるのみならず、スケジュール調整や過去の振り返りも効率的に行うことができます。

3. コミュニケーションランチの実施

各学校間の相互理解の向上を目的として、「コミュニケーションランチ」を実施しました。「普段関わることが少ない教職員と話すことができ、新しい情報を得ることができた」等の意見が、多数寄せられました。今回の取り組みでは、「つながる」きっかけの提供を行うことで、教職員一人ひとりが自発的・主体的に「つながり」を考える一助となりました。

4. 学園の求める人財の確保

中高教採用活動について、株式会社ブレ

インアカデミー主催の「教員採用説明会」

(東京・大阪) に春季・秋季と 2 回ずつ計 4 回参加しました。春季には申込者が 20 名、秋季には 34 名と昨年度を上回る来場者となりました。

また、新採用学生に関しては、内定者に対してのフォローアップとして内定者懇親会を職員には 2 回、教員には 1 回開催しました。第 4 次中期計画の中期ビジョン「つながる力で人を育てる」の一環として、新採用者間でもお互いのことを知り、入職後もスムーズに打ち解けるができるように企画しました。

6. 国際交流活動の推進と留学生募集活動

大学と高校の双方で、タイとの交流活動が活発に行われ、大学の教職員や高校・専門学校の校長先生の来タイも実現しました。これにより、国際交流の目的や理解を深める貴重な機会が生まれ、姉妹校や協定校との絆を強めた年でもありました。

留学生募集活動については、留学フェアや説明会へ積極的に参加した結果、日本博からは福井県医療福祉専門学校日本語学科(以下日本語学科)の受験者 2 名と大学院受験者 1 名、OCSC 留学フェアからは大学院受験者 1 名の応募となりました。また、姉妹校からは、短期留学推薦入学者 8 名と大学進学希望の日本語学科受験者 2 名の





応募があり、国際交流活動を通して、留学希望者が増え始めています。

7. 学園施設・設備の改修

大学では、1号館屋上の防水シートの張り替え修繕工事及び、1-805 講義室の改修工事を実施しました。1-805 講義室は、集中講義、各種テストや教授会の実施など中学、高校、大学を通して、利用頻度が高く、今後も、教育力・研究力を高めていく利用が期待できます。

医療福祉専門学校高木校舎は、外壁の老朽化で慢性的に雨漏り問題が発生していたため、屋上の防水シート及び、外壁の張り替え改修工事を実施しました。

金井講堂の天井の老朽化に伴い、耐震性に優れた天井への改修工事を実施し、照明についても、温かみのある電球色を採用し、LED 化を推進させ、省エネルギー対策を講じました。今後、安全性の高いリニューアルした金井講堂で、各式典が厳かに実施され、あらたな歴史を刻みます。

また、学生・生徒が安全に待機でき、通行する方との事故防止になる環境を整備することを目的に、福井工業大学前バス停の拡張工事を実施しました。



8. 第4次中期計画ポスター決定

第4次中期計画の初年度として、今回の中期ビジョン「つながる力で人を育てる」をテーマとしたポスターデザインを決定しました。このデザイン決定にあたっては、学内にて公募を行い、学生・生徒から21作品の応募がありました。



品に応募がありました。選考は、学内にて投票を実施し、結果、福井高校デザイン科3名の合作となったデザインが選ばれました。

9. 地域の方々への知名度向上

地域の方々への知名度向上を目的に、ラッピング車両の導入を実施しました。市内を走る機会が多い学園バスにラッピングをし、宇宙をテーマにしたデザインと、令和7年4月より校名変更した、L'ecole des gourmands Fukui デザインの計2台です。





6. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

【法人本部】

- ・吉本興業株式会社との連携による情報発信
- ・学園全体のスケジュール共有方法の導入
- ・タイとの国際交流強化
- ・大学1号館防水シート工事、1-805講義室改修
- ・福井県医療福祉専門学校の屋上防水シート工事、外壁張替え工事
- ・金井講堂天井改修工事および照明のLED化工事
- ・第4次中期計画ポスター決定、配布

【福井工業大学】

- ・13.5m級パラボラアンテナ整備
- ・地域課題解決型PBLの推進
- ・県内企業、自治体等との連携活動の推進
- ・明知大学（大韓民国）、ラジャマンガラ工科大学ラチャパット校（タイ）およびキングモンクット工科大学ラッカバン校（タイ）との交流
- ・令和6年度宇宙戦略基金事業への採択および月・地球通信システム地上局としての基本設計および地上局ネットワークに関する検討
- ・あわら宇宙センターの設立（令和6年7月）
- ・学生プロジェクト（Ene-1 GP、学生フォーミュラ）の取り組み、FUTロボットファクトリープロジェクトの新設
- ・ダイバーシティ推進に向けた教職員研修会の実施

【福井高等学校・福井中学校】

- ・学校祭にて吉本興業株式会社と吉本新喜劇を企画・披露
- ・姉妹校 プラサミット高校（タイ）、ブルークパンヤ高校（タイ）、新日馬富士学園（モンゴル）との国際交流
- ・連携協定締結校 福井県立特別支援学校との地域社会交流
- ・デュアル・ディプロマ・プログラム修了者の輩出

【福井県医療福祉専門学校・福井製菓専門学校】

- ・福井県医療福祉専門学校 介護福祉士コースにて年2回の国家試験対策模試の実施
- ・福井製菓専門学校 特別講師によるコンクール対策講座、強化チームの活動により県内大会にて金・銀・銅の全ての賞を受賞
- ・両校 シーナカリンウィロート大学プラサーンミット高校（タイ）、日馬富士学園（モンゴル）との交流
- ・福井製菓専門学校 福井コーヒーフェスティバルへ初出店



7. 施設等の状況

主な施設設備の状況は次のとおりです。

所在地	施設等	面積等(うち所有地)	帳簿価格(千円)	概要
福井県福井市 (福井キャンパス)	校地	73,076 m ² (40,685 m ²)	2,623,230	大学、高校、中学校及び法人本部が利用している
	校舎等	74,641 m ²	13,213,256	
福井県福井市 (角折校地)	校地	15,827 m ² (13,020 m ²)	243,476	クラブ活動に利用している
	校舎等	556 m ²	36,463	
福井県あわら市 (あわらキャンパス)	校地	159,387 m ² (105,603 m ²)	1,138,688	大学の学部の一部とクラブ活動に利用している
	校舎等	9,215 m ²	1,337,951	
福井県吉田郡 永平寺町	校地	121,085 m ²	138,740	大学および高校のグラウンドとして利用している
	校舎等	3,786 m ²	851,050	
福井県福井市 (高木校舎)	校地	2,923 m ² (2,923 m ²)		福井県医療福祉専門学校が利用している
	校舎等	1,884 m ²	200,307	
福井県福井市 (松本校舎)	校地	1,222 m ² (1,222 m ²)	83,228	福井県医療福祉専門学校と福井製菓専門学校が利用している
	校舎等	1,926 m ²	87,230	
福井県福井市 (成和校舎)	校地	m ²		福井県医療福祉専門学校が利用している
	校舎等	504 m ²	16,685	
福井県坂井市 (第三体育館)	校地	1,049 m ² (1,049 m ²)	3,254	福井県医療福祉専門学校と福井製菓専門学校が利用している
	校舎等	815 m ²	4,947	

(令和7年3月31日現在)

(令和6年度 実績)

- ・金井講堂吊り天井耐震改修工事 (令和6年9月完成)
- ・福井工業大学1号館8階805大講義室改修工事 (令和7年3月完成)
- ・福井工業大学13.5m級パラボラアンテナ整備 (令和7年3月完成)
- ・福井工業大学前バス停拡張工事 (令和6年9月完成)
- ・医療福祉専門学校高木校舎外壁改修工事 (令和6年12月完成)
- ・医療福祉専門学校松本校舎駐輪場設置工事 (令和7年3月完成)
- ・福井高校グラウンドのスコアボード設置工事 (令和7年3月完成)

(令和7年度 予定)

- ・福井工業大学FUTタワー外壁改修工事 (令和7年11月予定)
- ・あわらキャンパス1号館・2号館雨漏れ修繕I期工事 (令和7年8月予定)
- ・福井工業大学3号館2階原子力実験室改修工事 (令和7年11月予定)
- ・金井体育館アリーナワックスがけ工事 (令和7年7月予定)

○ 耐震化率	97.76%
-大学	100.00%
-中高	97.13%
-専門学校	79.42%



1. 決算の概要

1-1. 資金収支計算書

【概要】

資金収支の規模は、前年度比 1,378 百万円減の 12,644 百万円となりました。

まず、収入の部については、主たる収入である学生生徒等納付金収入において、前年度比 207 百万円減の 3,514 百万円となりました。補助金収入では、前年度比 263 百万円増の 1,210 百万円となりました。

支出の部については、教育研究経費が前年度比 84 百万円減の 1,968 百万円となりました。なお、今年度施設関係支出は前年度比 218 百万円増の 993 百万円、設備関係支出は前年度比 27 百万円減の 246 百万円となりました。

【経年比較表】

(単位：千円)

収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	3,734,450	3,845,330	3,770,736	3,720,670	3,513,593
手数料収入	60,618	44,819	45,285	39,194	31,086
寄付金収入	90,829	184,906	112,347	98,498	93,920
補助金収入	1,071,471	1,143,426	1,260,092	946,679	1,209,733
資産売却収入	1,291	1,162	760	73,674	411
付随事業・収益事業収入	46,697	50,696	96,746	63,555	178,038
受取利息・配当金収入	105,804	183,987	170,401	175,789	214,628
雑収入	113,042	106,168	91,516	127,170	119,228
借入金等収入	0	2,000,000	0	0	0
前受金収入	430,625	480,410	454,255	449,660	464,152
その他の収入	7,885,748	7,233,462	6,409,406	6,447,196	5,960,344
資金収入調整勘定	△ 682,381	△ 783,618	△ 637,422	△ 630,030	△ 778,119
前年度繰越支払資金	1,581,160	1,930,927	3,106,788	2,510,282	1,637,251
収入の部合計	14,439,354	16,421,675	14,790,909	14,022,338	12,644,265

支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	2,502,254	2,677,032	2,796,917	2,810,509	2,815,131
教育研究経費支出	1,583,513	1,739,954	1,965,812	2,052,197	1,967,821
管理経費支出	614,771	655,193	813,114	859,934	816,146
借入金等利息支出	0	2,635	5,581	4,684	3,772
借入金等返済支出	0	95,200	285,600	285,600	285,600
施設関係支出	269,593	1,023,206	1,643,012	775,119	993,234
設備関係支出	333,758	640,380	398,818	272,949	245,617
資産運用支出	5,753,202	5,253,183	2,551,703	3,489,151	2,578,865
その他の支出	1,824,503	2,111,623	2,473,160	2,399,123	2,367,199
資金支出調整勘定	△ 373,166	△ 793,517	△ 653,091	△ 564,179	△ 415,312
翌年度繰越支払資金	1,930,927	3,016,788	2,510,282	1,637,251	986,193
支出の部合計	14,439,354	16,421,675	14,790,909	14,022,338	12,644,265



1-2. 事業活動収支計算書

【概要】

設置する大学の定員が未充足となった中で、学園全体での経費削減に努めた結果、教育活動収支差額においては前年度比 215 百万円の収支改善、教育活動外収支差額においては前年度比 37 百万円の収支改善、よって経常収支差額は前年度比 252 百万円の収支改善（△1,634 百万円）となりました。

また、特別収支差額は、504 百万円減

の 185 百万円の計上となりました。よって、基本金組入前当年度収支差額は、前年度比 252 百万円増の△1,449 百万円、当年度収支差額は前年度比 433 百万円増の 2,629 百万円の支出超過を計上し、翌年度繰越収支差額は 20,444 百万円の支出超過となりました。

事業活動収入計は前年度比 305 百万円減額となりました。

【経年比較表】

（単位：千円）

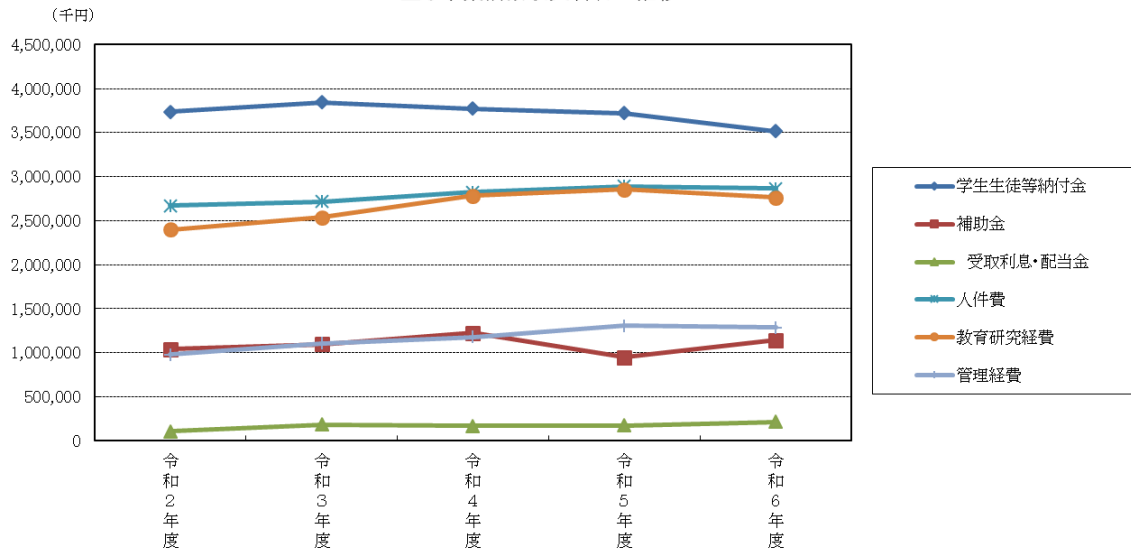
科目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	3,734,450	3,845,330	3,770,736	3,720,670	3,513,593
	手数料	60,618	44,819	45,285	39,194	31,086
	寄付金	90,829	185,106	112,686	99,257	96,501
	経常費等補助金	1,037,843	1,098,749	1,225,370	946,679	1,145,063
	付随事業収入	46,459	50,561	96,426	63,794	177,643
	雑収入	129,182	105,573	100,726	125,348	119,228
	教育活動収入 計	5,099,381	5,330,138	5,351,229	4,994,942	5,083,114
	人件費	2,668,582	2,717,251	2,824,316	2,891,348	2,865,491
	教育研究経費	2,399,528	2,536,939	2,784,343	2,853,365	2,762,692
	管理経費	979,086	1,108,200	1,178,269	1,304,953	1,285,623
教育活動支出の部	徴収不能額等	0	578	5,667	4,528	13,494
	教育活動支出 計	6,047,197	6,362,969	6,792,595	7,054,194	6,927,300
教育活動収支差額		△ 947,815	△ 1,032,830	△ 1,441,366	△ 2,059,252	△ 1,844,187
科目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	105,804	183,987	170,401	175,789	214,628
	その他の教育活動外収入	168	595	0	1,822	0
	教育活動外収入 計	105,972	184,582	170,401	177,611	214,628
	借入金等利息	0	2,635	5,581	4,684	3,772
	その他の教育活動外支出	1	0	3,153	0	781
	教育活動外支出 計	1	2,635	8,734	4,684	4,553
	教育活動外収支差額	105,971	181,947	161,667	172,927	210,075
経常収支差額		△ 841,845	△ 850,884	△ 1,279,699	△ 1,886,325	△ 1,634,112
科目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
特別収支の部	資産売却差額	141,197	372,211	92,240	665,735	188,913
	その他の特別収入	47,119	370,889	49,071	23,860	70,529
	特別収入 計	188,316	743,100	141,311	689,595	259,442
	資産処分差額	11,708	14,826	91,616	72	74,398
	その他の特別支出	0	1,624	0	0	0
	特別支出 計	11,708	16,450	91,616	72	74,398
	特別収支差額	176,607	726,649	49,695	689,523	185,044
基本金組入前当年度収支差額		△ 665,237	△ 124,235	△ 1,230,005	△ 1,196,802	△ 1,449,068
基本金組入額合計		△ 575,129	△ 1,935,340	△ 1,626,282	△ 999,240	△ 1,179,809
当年度収支差額		△ 1,240,366	△ 2,059,575	△ 2,856,297	△ 2,196,042	△ 2,628,877

（参考）

事業活動収入計	5,393,670	6,257,821	5,662,942	5,862,148	5,557,184
事業活動支出計	6,058,906	6,382,054	6,892,945	7,058,950	7,006,252



主な事業活動収支科目の推移



1-3. 貸借対照表

【概要】

本年度の資産総額は、前年度比 1,817 百万円減の 30,276 百万円となりました。

資産の部においては、学園施設・設備の新設・改修を実施しました。

負債の部においては借入金の返済のほか、未払金の減少等により、負債総額は、前年度比 368 百万円減の 3,359 百万円となりました。

【経年比較表】

(単位：千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	30,798,803	31,951,515	30,904,091	30,207,964	28,882,857
流動資産	2,181,694	3,332,028	2,718,013	1,885,081	1,393,227
資産の部合計	32,980,497	35,283,543	33,622,104	32,093,045	30,276,085
固定負債	1,138,206	2,828,242	2,556,913	2,348,235	2,111,119
流動負債	925,508	1,662,752	1,502,647	1,379,068	1,248,292
負債の部合計	2,063,714	4,490,994	4,059,560	3,727,303	3,359,411
基本金	41,870,292	43,805,632,236	45,431,914	46,431,154	47,360,963
繰越収支差額	△ 10,953,509	△ 13,013,084	△ 15,869,371	△ 18,065,412	△ 20,444,290
純資産の部合計	30,916,783	30,792,548,585	29,562,544	28,365,742	26,916,674
負債及び純資産の部合計	32,980,497	35,283,543	33,622,104	32,093,045	30,276,085



2. 主な財務比率比較

2-1. 主な財務比率比較

比 率	計算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	51.3%	49.3%	51.2%	54.3%	54.1%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	71.5%	70.7%	74.9%	75.5%	81.6%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	46.1%	46.0%	50.4%	55.2%	52.1%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	18.8%	20.1%	21.3%	25.1%	24.3%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-12.3%	-2.0%	-21.7%	-20.6%	-26.1%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入－基本金組入額}}$	125.7%	147.6%	170.8%	104.2%	104.0%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	71.7%	69.7%	68.3%	71.9%	66.3%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.7%	3.0%	2.0%	2.1%	1.8%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	1.7%	3.4%	2.0%	1.9%	1.8%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	19.2%	17.6%	21.6%	16.2%	20.6%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	19.9%	19.9%	22.2%	18.3%	21.6%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	10.7%	30.9%	28.7%	15.8%	21.2%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	19.5%	17.7%	17.4%	17.7%	18.3%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-16.6%	-15.4%	-23.2%	-36.4%	-30.8%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-18.6%	-19.4%	-26.9%	-41.1%	-36.3%

○ 「学校法人会計基準」に基づく事業活動収支計算書を用いて、表に示された計算式により、比率を算出しました。

※1 経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計

※2 経常支出 = 教育活動支出計 + 教育活動外支出計



3. その他

3-1. 有価証券の状況

(単位：千円)

		(令和7年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表を上回るもの	有価証券	293,038	345,962	52,923
	減価償却引当特定資産	1,233,218	1,520,051	286,833
	施設設備拡充引当特定資産	336,062	431,609	95,547
	退職給与引当特定資産	500,000	650,350	150,350
	第2号基本金引当特定資産	500,000	574,509	74,509
	第3号基本金引当特定資産	1,000,000	1,117,021	117,021
	計	3,862,318	4,639,502	777,183
	(うち満期保有目的債券)			
時価が貸借対照表を上回らないもの	減価償却引当特定資産	200,000	200,000	0
	施設設備拡充引当特定資産	1,209,338	1,150,320	△ 59,018
	退職給与引当特定資産	554,838	507,470	△ 47,367
	教育研究基金	120,660	119,304	△ 1,356
	計	2,084,835	1,977,094	△ 107,741
	(うち満期保有目的債券)			
合 計		5,947,154	6,616,596	669,442
(うち満期保有目的の債券)				
時価のない有価証券		1,910		
有価証券合計		5,949,064		

種類	(令和7年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
株 式	335,070	445,787	110,717
投資信託	1,369,391	1,586,539	217,149
その他	4,242,692	4,584,269	341,577
計	5,947,154	6,616,596	669,442
時価のない有価証券	1,910		
有価証券合計	5,949,064		

3-2. 借入金の状況

(令和7年3月31日現在)

借入先	借入残高	利率	借入期間	担保等
福井銀行	1,048,000千円	0.32%	7年0か月	なし

3-3. 学校債の状況 . . . なし



3-4. 寄付金の状況

○教育振興寄付金（大学：1口5万円、高等学校・中学校・専門学校：1口3万円）

令和6年度 募集実績

・大学	1,200 千円
・高等学校	1,590 千円
・中学校	270 千円
・専門学校	0 千円

○一般寄付金（主なもの）

・上野電機株式会社	5,000 千円
・株式会社 C&B	5,000 千円
・福井鋳螺株式会社	3,000 千円
・株式会社福井銀行	1,000 千円
・株式会社山田組	1,000 千円
・株式会社三木組	1,000 千円
・英光産業株式会社	1,000 千円
・株式会社文殊四郎管工商会	1,000 千円
・その他 PTA 寄付金、卒業寄付金	

3-5. 補助金の状況

【福井工業大学】

・令和6年度私立大学等経常費補助金	162,697 千円
・令和6年度授業料等減免費交付金	103,683 千円

【福井工業大学附属福井高等学校】

・令和6年度私立高等学校教育振興補助金	478,082 千円
・令和6年度私立高等学校等就学支援事業補助金	146,112 千円

【福井工業大学附属福井中学校】

・令和6年度私立中学校教育振興補助金	45,733 千円
--------------------	-----------

【福井県医療福祉専門学校・福井製菓専門学校】

・令和6年度高等教育修学支援事業補助金	4,393 千円
・令和6年度私立専修学校等教育振興補助金	3,996 千円



3-6. 収益事業の状況

収益事業として、不動産賃貸業及び福井県立馬術競技場（福井ホースパーク）及び若狭町みさき漁村体験施設（みさきち）の指定管理を行っており、その状況は以下のとおりです。

【貸借対照表】

（単位：千円）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
流動資産	388,819	405,083	147,325	87,914	129,408
固定資産	816,975	802,078	772,394	742,711	716,691
資産合計	1,205,794	1,207,161	919,719	830,625	846,099
流動負債	30,918	17,610	12,631	11,562	12,977
固定負債	3,700	3,700	3,700	3,700	3,580
負債合計	34,618	21,310	16,331	15,262	16,557
純資産合計	1,171,176	1,185,851	1,185,851	815,363	829,542
負債・純資産合計	1,205,794	1,207,161	1,202,182	830,625	846,099

【損益計算書】

（単位：千円）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業収入	82,976	89,527	91,815	94,590	96,453
補助金収入	0	0	0	0	0
一般管理費	73,102	76,574	82,067	183,356	84,206
営業利益	9,874	12,953	9,748	△ 88,766	12,247
営業外損益	1,463	1,721	7,791	1,357	1,932
経常利益	11,337	14,674	17,539	△ 87,409	14,179
特別損益	0	0	0	0	0
当期純利益	11,337	14,674	17,539	△ 87,409	14,179

3-7. 関連当事者との取引の状況

会社等の名称	資本金等	出資割合	取引の内容	摘要
株式会社 C&B	3,000千円	48%	不動産賃貸業務委託、人材派遣契約の締結	理事長が52%出資。委託費180百万円支払い。

4. 来年度以降の展望

第4次中期計画の初年度となる令和6年度は、新たな財務5ヵ年計画の達成に向けて厳格な予算編成を実施しました。令和7年度以降も教育・研究への影響を最小限におさえつつ、計画の達成に向けてメリハリのある予算計画・執行を行い、更なる教育

環境の充実、学生・生徒に対し、より質の高いサービスの提供を実現するとともに、収入の安定化や、支出の適正化による収支均衡を目指します。